

世界の主な自然災害

1970年以降に世界各地で発生した死者1,000人以上の大規模な自然災害について地域別に整理した。

地域分けは、国連の地理区分を参考に、東アジア、東南アジア、南アジア、中央・西アジア、ヨーロッパ・ロシア、アフリカ、北米、中・南米、オセアニアとした。なお、ロシア東部は東アジアに区分した。

自然災害には気候変動による（火山噴火がその原因になっている場合もある）冷害や干害に伴う飢饉も含まれるものと考えられるが、ここでは自然災害の中を含めなかった。

整理に当たっては、防災白書、Wikipediaの「地震の年表」、「世界の地震被害の表(宇津徳治によるデータベース)」等を参考にしている。死者の数については、人口統計が不備な国や政治的な理由で過少に公表する国もあり、正確な数字は不明な場合が少なくない。資料によりまちまちな場合もあり、その場合は防災白書の数字を優先し、適宜、判断した。

この半世紀ほどの世界の自然災害を概観すると、大きな被害をもたらす災害は、地震と水害（サイクロン、ハリケーンや洪水など）である。

このうち、水害による人的被害については減少傾向が見て取れる。これは河川改修などが進んだこともあるが、防災意識の啓発・向上や予報技術、情報伝達技術の飛躍的な発展により警戒・避難体制が格段に整備されてきたことによるのではないかと考えられる。このことは、2007年のバングラデシュで起きたサイクロン・シドルによる人的被害がサイクロンシェルターの整備や気象局のレーダー整備により1970年、1991年のサイクロン被害と比べ大きく減少したことや1959年の伊勢湾台風以降、死者1,000人を超えるような台風災害の発生していない日本の災害史を振り返るとより明確である。アメリカで2005年に発生したハリケーン・カトリーナによる被害の発生は先進国としては特異な事例だと思われるが、先進国においても、油断をすれば、まだまだ大きな被害が発生することもあるようだ。また、地球温暖化に伴い、サイクロン、ハリケーン、台風の大規模化が進んでおり、大規模な水害の発生を危惧する声もある。

地震による直接的な被害は、建物の倒壊による圧死、津波、山崩れ・地すべり、震災大火に大きく類型化できる。このうち最も被害が大きいのは建物の倒壊による場合である。また、その原因となる地震は直下型地震（プレート内地震）であることが多い。直下型地震の多くは地震の規模としてはマグニチュード7程度であり、プレート境界型の巨大地震と比べ地震のエネルギーは100分の1から1,000分の1程度にすぎない。こうした地震であっても、人口稠密地の直下で起きた場合は甚大な被害をもたらす。傾向としては、2010年のハイチ地震のような事例もあるが構造物の耐震化や防災意識の向上により減少してきていると言えるのではないだろうか。また、津波による被害の発生はプレート境界型の地震に起因することが多く、まだまだ大きな被害が発生している。震災大火による大規模な被害の発生はこの半世紀、発生していない。震災大火による大規模な被害の発生が危惧されるのは、今日の先進国の中では、おそらく日本だけではないだろうか。

なお、最近の災害では、被災後の伝染病の発生の防止に加え、日本の東日本大震災や阪神・淡路大震災、アメリカのハリケーン・カトリーナなどに見られるような劣悪な避難生活に起因する災害関連死の発生を防止することも大きな課題となっている。

1,000人以上の死者をもたらした自然災害の発生を2018年5月現在で地域別に見ると、最も件数が多いのは、南アジアで42件、東アジアが19件、南北アメリカが18件、東南アジアが17件、中央アジア・西アジアが8件、アフリカが4件、ヨーロッパ・ロシアが2件、オセアニア1件となっている。

また、原因別にみると、地震によるものが58件、サイクロン、ハリケーン、豪雨などによるものが50件、噴火によるものが3件となっている。

各災害については、規模の大きなものを中心に分かる範囲で簡単なコメントをつけた。

1 東アジア

2011年3月	日本 東日本大震災	死者 1万9,000人
	地震の規模はモーメントマグニチュード9.0で、日本の地震観測史上最大となっている。この地震で発生した津波により、宮城県、岩手県、福島県で甚大な被害が発生した。これらの地域では、これまでも1896年6月に明治三陸大津波(犠牲者2万1,959人)、1933年の昭和三陸大津波(犠牲者3,064人)など、度々、津波により大きな被害が発生している。また、福島県の東京電力福島第一原子力発電所で電源喪失により原子炉の冷却が不可能となり、重大な原子力事故が生じた。	
2010年7月	中国長江流域 豪雨・土石流	死者 1,800人
2010年4月	中国青海省 青海地震	死者 3,000人
	中国青海省玉樹チベット族自治州玉樹県で発生、地震の規模は6.9(モーメントマグニチュード)であった。	
2008年5月	中国 四川大地震	死者 8万7,500人
	中国四川省アバ・チベット族チャン族自治州汶川県で発生。地震の規模はモーメントマグニチュードで7.9だった。直下型地震としては最大規模といわれている。建築物の倒壊により大きな被害となったが、とりわけ学校校舎の倒壊が目立ち、これによる教師、生徒の死者が2万人近くにも及んだ。	
1999年9月	台湾 集集地震	死者 2,300人
	台湾中部を震源に発生した。地震の規模はモーメントマグニチュードで7.6である。地震の発生した9月21日は、その後、台湾の「防災の日」となった。	
1998年8月	中国長江等沿岸 洪水	死者 3,700人
1996年	中国南部7省等 洪水・台風	死者 2,800人
1995年5月	ロシア、サハリン北部 ネフチェゴルスク地震	死者 1,800人
1995年	中国湖南省等 洪水	死者 1,200人
1995年1月	日本 阪神・淡路大震災	死者 6,300人
	地震の規模はマグニチュード7.3。都市直下型の地震で神戸市を中心に甚大な被害をもたらした。死因の大半は建物の倒壊等による圧死であった。また、厳寒期の避難所生活が原因の震災関連死が問題となった。震災火災も発生したが、当日は風が弱かったこともあり、大規模な延焼は免れた。	
1994年	中国南部6省 台風・洪水	死者 1,000人
1991年	中国江蘇省 洪水	死者 1,900人
1989年	中国四川省 洪水・地すべり	死者 2,000人
1988年11月	中国雲南省 地震	死者 1,000人
1976年7月	中国河北省 唐山地震	死者 24万2,000人
	中国河北省唐山市で発生。モーメントマグニチュードは7.5と推定されている。当時、中国有数の産業・港湾都市であった唐山市はこの地震によって壊滅的な被害を受けた。なお、死者の数については、公表された死者数を大きく上回った65万人から70万人と推定する説もある。	
1975年2月	中国遼寧省 海城地震	死者 1,300人
	地震の規模はマグニチュード7.3であった。行政当局があらかじめ警報を出し、住民の避難が行われていた地区もあったことから、地震の予知に成功したといわれたが、その後の検証では、この地震には前震が多かったため予知が成功したとされ、普遍性はないとされている。	
1974年5月	中国四川省 大関地震	死者 1,400人
1973年2月	中国四川省 炉霍地震	死者 2,200人
1970年1月	中国雲南省 通海地震	死者 1万人
	雲南省通海県で発生した。地震の規模はマグニチュード7.7といわれている。当時は文化大革命期で被災状況など詳しいことは公表されなかった。	

② 東南アジア

2013年11月	フィリピン 台風・ハイヤン	死者 6,200人
	最大瞬間風速105m／秒を記録したといわれる台風・ハイヤンにより、タクロバン島を中心に甚大な被害が発生した。	
2012年12月	フィリピン 台風・ポーファ	死者 1,900人
2011年12月	フィリピン 台風・ワシ	死者 1,400人
2009年9月	2009年スマトラ島沖地震	死者 1,200人
	スマトラ島バダン沖で発生したモーメントマグニチュード7.5の地震。2004年、2005年の巨大地震とは異なりプレート内地震とされている。	
2008年4月	ミャンマー サイクロン・ナルギス	死者 13万8,400人
	ミャンマーのエーヤワディー川(旧称イラワジ川)デルタにサイクロンが上陸し、甚大な被害をもたらした。ミャンマーでは従来、サイクロンの襲来は稀であったことから、対策が不十分であり、被害の拡大につながった。	
2006年	フィリピン 台風・シャンセン	死者 1,400人
2006年5月	インドネシア ジャワ島中部地震	死者 5,800人
	地震の規模はモーメントマグニチュードで6.3であった。ほぼ同時期に近くのムラピ火山も噴火した。	
2006年	フィリピン レイテ島 地すべり	死者 1,000人
2005年3月	インドネシア 2005年スマトラ島沖地震	死者 2,000人程度
	2004年12月に発生したスマトラ島沖地震の誘発地震である。地震の規模はモーメントマグニチュードで8.6であった。	
2004年12月	インドネシア等 スマトラ島沖地震	死者 22万6,000人以上
	モーメントマグニチュード9.1のプレート境界型の巨大地震であり、20世紀以降の地震の規模としては1960年のチリ地震(バルディビア地震)の9.5に次ぐ。この地震により、大津波が発生し、インドネシア、インド、スリランカ、タイで大きな被害が発生し、マダガスカル、ソマリアなどのアフリカ各国にも被害が及んだ。死者は22万6,000人以上。クリスマス休暇で来ていたヨーロッパからの旅行者にも1,000人以上の被害がでた。	
1997年11月	ベトナム 台風リンダ	死者 3,700人
1996年	ベトナム 熱帯性暴風雨・洪水	死者 1,000人
1992年12月	インドネシア フローレス島 地震・津波	死者 2,100人
1991年11月	フィリピン レイテ島オルモック 台風セルマ	死者 6,000人
	台風セルマに起因する土石流、地すべりにより甚大な被害が発生した。	
1990年7月	フィリピン バギオ大地震	死者 2,000人
	ルソン島ダバオで発生したマグニチュード7.8の地震	
1976年8月	フィリピン ミンダナオ地震	死者 5,000人
	ミンダナオ島南方沖で起きたマグニチュード7.8の地震により発生した津波により大きな被害が発生した。	
1976年6月	インドネシア地震	死者 5,000人

③ 南アジア

2015年4月	ネパール ネパール地震	死者 9,000人
	カトマンズの北西77km付近で発生したモーメントマグニチュード7.8の地震である。この地震によって、ネパールでは建物の倒壊、土砂災害により甚大な被害が発生した。人口の集積しているカトマンズ盆地は地盤が軟弱な上、住居の多くが日干しレンガでできているため被害が拡大した。	
2013年	インド北部 洪水	死者 1,500人
2010年	パキスタン北西部 洪水	死者 2,000人
2009年	インド南部 洪水	死者 1,200人
2008年	インド北東部 洪水	死者 1,100人
2007年11月	バングラデシュ サイクロン・シドル	死者 4,200人
	過去のサイクロン災害を踏まえ、サイクロンシェルターと呼ばれるコンクリート製の高床式の避難施設が200棟整備されていたことに加え、気象局のドプラレーダーがサイクロンの動きを監視し、いち早く避難勧告を出したため、1970年、1991年のサイクロン被害に比べ人的被害を大きく減ずることができたといわれている。	
2007年	インド 大雨・洪水	死者 1,100人
2005年10月	パキスタン パキスタン地震	死者 7万5,000人
	パキスタンが実効支配する北東部のカシミール地方で発生。地震の規模はモーメントマグニチュードで7.6だった。在来住宅の倒壊による被害が多かった。	
2005年	インド、バングラデシュ 暴風雨	死者 1,300人
2005年	インド 洪水・地すべり	死者 1,200人
2003年12月	イラン バム地震	死者 2万6,800人
	イラン南東部ケルマン州バムで発生した。地震の規模はマグニチュード6.6であったが、震源の浅い直下地震であったため日干し煉瓦でできた在来住宅の倒壊により大きな被害が発生した。	
2002年3月	アフガニスタン北部 地震	死者 1,000人
	3月3日に続き、3月25日にも、ほぼ同じ地域で地震が発生。地震の規模は3日の地震がモーメントマグニチュードで7.4、25日の地震が6.1であった。被害は25日の地震が圧倒的に大きかった。これは3日の地震は深さ226kmで発生したのに対し25日の地震は深さ8kmで発生したためと考えられる。	
2001年1月	インド インド西部地震	死者 2万人
	インド西部グジャラート州で発生。地震の規模はモーメントマグニチュードで7.7だった。直下型地震としては最大級の地震だった。	
1999年10月	インド、オリッサ州 サイクロン・オリッサ	死者 9,500人
1998年	バングラデシュ 洪水	死者 1,000人
1998年	インド サイクロン	死者 2,900人
1998年	インド、アッサム州 洪水・地すべり	死者 3,000人
1998年5月	アフガニスタン タハール州 地震	死者 4,700人
	2月の地震に続き、ほぼ同じ場所で発生した。地震の規模はモーメントマグニチュードで6.5であった。	
1998年2月	アフガニスタン タハール州 地震	死者 2,300人
	地震の規模はモーメントマグニチュードで5.9。傾斜地に日干しレンガで建てられた住居の倒壊により大きな被害となった。情報が首都カブールに届くまで3日かかった。	
1997年	インド 洪水	死者 1,400人
1997年5月	イラン東部 ビールジャット地震	死者 1,600人

(続く)

③ 南アジア (続き)

1997年	イラン北西部 地震	死者 1,000人
1994年	インド 豪雨・洪水	死者 2,000人
1993年	インド 洪水	死者 1,200人
1993年9月	インド マハラシュトラ地震	死者 9,800人
	ほとんど地震のないインド中央部のデカン高原で発生した。モーメントマグニチュードは6.2と推定されており、それほど大きな地震ではなかったが、直下地震で住宅、建物の多くが耐震性が低かったため、大きな被害が発生した。	
1993年	ネパール 洪水	死者 1,800人
1992年	パキスタン 洪水	死者 1,300人
1991年4月	バングラデシュ サイクロン・高潮	死者 13万7,000人
	サイクロン199102号によりベンガル湾一帯で甚大な被害が発生した。1970年のサイクロン・ボーラに次ぐ大きな被害となった。バングラデシュでは、その後、サイクロンシェルターの建設が進むこととなった。	
1990年6月	イラン北部 マンジール地震	死者 4万1,000人
	イラン北部のマンジール市の北、約30km付近で発生。地震の規模はマグニチュード7.4だった。マンジール、ルードバールとその周辺に甚大な被害が発生した。	
1989年	インド 洪水	死者 1,000人
1988年	バングラデシュ 洪水	死者 2,000人
1988年	インド、ネパール 地震	死者 1,000人
1987年	バングラデシュ 洪水	死者 1,000人
1985年5月	バングラデシュ サイクロン	死者 1万人
1981年7月	イラン南部 地震	死者 1,500人
1981年6月	イラン南部 地震	死者 3,000人
1978年9月	イラン北東部 地震	死者 2万5,000人
	地震の規模はマグニチュード7.8と推定されている。	
1977年9月	インド、アンドラ・プラデシュ州 サイクロン・アンドラ・プラデシュ	死者 2万人
1974年	パキスタン北東部 地震	死者 5,300人
1974年	バングラデシュ 洪水	死者 2万8,700人
1971年11月	インド、オリッサ州 サイクロン・高潮	死者 1万人
1970年11月	バングラデシュ サイクロン・ボーラ	死者 30万人
	当時の東パキスタン、ボーラ地方とインドの西ベンガル州を襲ったサイクロンである。ベンガル・デルタ地帯の標高の低い島々が高潮被害にあい、サイクロンとしては史上最悪ともいわれる被害が発生した。バングラデシュ独立戦争の直接の契機となったともいわれている。	

④ 中央アジア・西アジア

1999年8月	トルコ イズミット地震	死者 1万5,500人
	イスタンブールから70kmほど離れたトルコ北西部のイズミット市で発生した地震、地震の規模はマグニチュード7.6であった。死者数については4万5,000人という説もある。	
1988年12月	アルメニア スピタク地震	死者 2万5,000人
	アルメニア北部のスピタク市で発生、地震の規模はマグニチュード6.8であった。集合住宅の倒壊等によりスピタク市周辺に壊滅的な被害をもたらした。被災地の復興が遅れた。	
1983年10月	トルコ東部エルズルム市 地震	死者 1,155人
1982年12月	イエメン・アラブ 地震	死者 2,800人
	南西部ザマールで発生。地震の規模はマグニチュード6.9だった。	
1976年11月	トルコ東部バアン県 地震	死者 3,840人
1975年9月	トルコ東部Lice 地震	死者 2,400人
1971年3月	トルコ東部ビンギョル 地震	死者 1,000人
1970年5月	トルコ西部Gediz Gediz地震	死者 1,100人

⑤ ヨーロッパ・ロシア

1980年11月	イタリア イルピニア地震	死者 4,700人
	イタリア南部で発生し、モーメントマグニチュードは6.9。激しい揺れにより建物の倒壊が相次ぎ、大きな被害となった。	
1977年3月	ルーマニア 地震	死者 1,500人
	地震の規模はマグニチュード7.2、震源の深さは110kmだった。震源から160km離れた首都ブカレストで建物の倒壊が相次いだ。ブカレスト市での死者は約1,400人。	



6 アフリカ

2003年5月	アルジェリア北部 地震	死者 2,300人
	地震の規模はマグニチュード6.8。震源に近いブーメルデス市などで建物の倒壊により大きな被害が発生した。	
1997年10月 ～12月	ソマリア 洪水	死者 2,000人
	ソマリア南部を流れるジュバ川流域で大きな被害が発生。この年の洪水はエルニーニョ現象の影響といわれている。	
1986年8月	カメルーン ニオス湖・有毒ガス	死者 1,700人
	火山の火口にできた湖の底に溜まった大量の二酸化炭素が突如噴出する「湖水爆発」により周辺の村で住民が多数、酸欠死した。なお、湖水爆発のメカニズムを明らかにしたのは日本人研究者である。また、同年6月に発足したばかりの日本の国際消防救助隊にとって初めての海外派遣となった。	
1980年10月	アルジェリア エルアスナム地震	死者 3,500人
	地震の規模はマグニチュード7.3であった。この地震によりエルアスナムの町は1954年の地震に続き、壊滅的な被害を受けた。	

7 南北アメリカ

2010年1月	ハイチ ハイチ地震	死者 22万2,600人
	モーメントマグニチュード7.0と推定される直下型地震。パンケーキクラッシュにより、大統領府や国会議事堂をはじめ多くの建物が崩壊し、甚大な被害となった。手抜き工事が多かったといわれている。地震発生後に略奪行為も多発した。また、その後、コレラが蔓延し、最終的には1万人もの死者がでたが、国連のPKO活動により、コレラ菌が持ち込まれたとされている。	
2005年10月	グアテマラなど ハリケーン・スタン	死者 1,500人
2005年8月	アメリカ ハリケーン・カトリーナ	死者 1,800人
	アメリカ南東部を襲ったハリケーン・カトリーナによりルイジアナ州ニューオーリンズ市を中心に甚大な被害が発生した。ニューオーリンズ市では堤防が複数個所で決壊し、市内の陸上面積の8割が水没したといわれている。罹災後、避難者への対応が全く進まず、高齢者の衰弱死が目立つなどした。	
2004年9月	ハイチ、ジャマイカなど ハリケーン・ジーン	死者 3,000人
2004年5月	ハイチ、ドミニカ 洪水	死者 2,700人
2001年1月	エルサルバドル 地震	死者 1,200人
	モーメントマグニチュード7.6の地震で、首都サンサルバドルの西に隣接するヌエバサンサルバドルで大規模な地滑りが住宅地を襲い、被害が拡大した。	
1999年12月	ベネズエラ 洪水・土石流	死者 3万人
	ベネズエラ北部のカリブ海に面したバルガス州で豪雨にともなう土石流等により甚大な被害が発生した。ラテンアメリカで20世紀に起きた最悪の災害といわれている。無秩序な土地利用と防災対策の遅れにより被害が拡大した。	
1999年1月	コロンビア キンディオ地震	死者 1,200人
	マグニチュード6.2の直下地震だった。	
1998年10月	ホンジュラス、ニカラグア ハリケーン・ミッチ	死者 1万7,000人(推定)
	ハリケーン・ミッチにより、ホンジュラスをはじめニカラグアなど中米諸国中心に大きな被害が発生した。死者数は1万7,000人といわれており、20世紀以降、ハリケーンによる被害者数としては最大である。	
1994年	ハイチ 熱帯性暴風雨	死者 1,100人

(続く)

7 南北アメリカ (続き)

1987年3月	エクアドル、コロンビア 地震	死者 5,000人
	地震の規模はマグニチュード6.9であったが、直下地震のため大きな被害が発生した。	
1986年10月	エルサルバドル サンサルバドル地震	死者 1,000人
	地震の規模は、マグニチュード7.5。首都サルサルバドルで住宅の倒壊等により大きな被害が発生した。日本から国際消防救助隊が8月のアフリカ、カメルーンのニオス湖・有毒ガス災害に次いで派遣され、事実上、初めての海外での活動となった。	
1985年11月	コロンビア ネバド・デル・ルイス火山噴火(泥流)	死者 2万2,000人
	噴火の規模は「やや大規模」程度であったが、この噴火で発生した火砕流により、山頂付近の雪や氷が解け、大量の泥流が発生し、ふもとの町アルメロで大きな被害が発生した。噴火直前の10月にはハザードマップが作成されていたが、活用されなかった。	
1985年9月	メキシコ メキシコ地震	死者 1万人
	地震の規模はモーメントマグニチュード8.0。震源は首都メキシコシティから300kmも離れていたが、長周期地震動により、もともと湖だった場所を埋め立てて建設されたメキシコシティに大きな被害が出た。	
1982年3月	メキシコ エルチヨン山噴火	死者 1万7,000人
	噴火に伴い火砕流が発生し、ふもとの集落に大きな被害が発生した。資料の中には犠牲者は2,000人程度というものもある。	
1976年2月	グアテマラ グアテマラ地震	死者 2万4,000人
	モーメントマグニチュードは7.5。地震発生が深夜であったこと、日干し煉瓦に似たアドベを使った在来住宅が壊滅的な被害を受けたため大災害となった。	
1972年12月	ニカラグア マナグア大地震	死者 1万人
	地震の規模はマグニチュード6.2と推定されているが、首都マナグア市の直下5kmのごく浅いところで発生したため、大きな被害をもたらした。	
1970年5月	ペルー北部 アンカシュ地震	死者 6万7,000人
	地震の規模はマグニチュード7.7、アンカシュ州の州都ワラスでは建物の9割が崩壊し、3万人が犠牲となった。また、ペルー最高峰のワスラカンのふもとの町ユンガイはワスラカン北峰が氷河とともに大崩落を起こし壊滅した。	

8 オセアニア

1998年7月	パプアニューギニア アイタベ津波	死者 2,600人
	地震の規模はマグニチュード7.0程度であり、地震の規模に比して巨大な津波が発生したといわれている。	



〔参考〕死者1万人以上の世界の自然災害

ここでは上述の自然災害のうち、死者1万人以上の特に被害の規模が大きかった自然災害を年代順に改めてリストアップした。

これを見ると、最も人的被害の大きかった災害は1970年にバングラデシュ(当時は東パキスタン)を襲ったサイクロン・ボーラであり、死者の数は30万人に及んでいる(なお、この災害が直接の契機となってバングラデシュ独立戦争が始まった)。これに次いで、1976年7月に発生した中国の唐山地震、2004年12月発生のスマトラ島沖地震、2010年1月発生のハイチ地震、2008年4月にミャンマーを襲ったサイクロン・ナルギス、1991年4月のバングラデシュ・サイクロン(以上が死者数10万人以上)の順となっている。ただし、実際の死者等の数は政治的配慮や人口統計の不備により、かなり違っているのではないと思われる。

地域別に見ると、南アジアが11件、南北アメリカ(中南米)が9件、東アジアが4件、東南アジアが2件、中央アジア・西アジアが2件、となっている。一方で、ヨーロッパ・ロシア、アフリカ、北アメリカ、オセアニアでは死者1万人を超える自然災害は1970年以降、発生していない。また、原因別にみると地震が17件、水害(サイクロン、ハリケーン、洪水など)が9件、噴火に起因するものが2件となっており、地震の比率が6割を超え、犠牲者1,000人以上の場合と比べ、より高まっている。さらに2001年以降に限定すると、地震が6件、水害(サイクロン)が1件となっている。

自然災害による被害の規模は地震やサイクロン等の規模や地理的、地質的な条件もさることながら地域の人口密度や生活レベル、近代化の程度に大きく左右されると言えるようだ。

2011年3月	日本	東日本大震災	死者 1万9,000人
2010年1月	ハイチ	ハイチ地震	死者 22万2,600人
2008年5月	中国四川省	四川大地震	死者 8万7,500人
2008年4月	ミャンマー	サイクロン・ナルギス	死者 13万8,400人
2005年10月	パキスタン	パキスタン地震	死者 7万5,000人
2004年12月	インドネシア等	スマトラ島沖地震	死者 22万6,000人以上
2003年12月	イラン	バム地震	死者 2万6,800人
2001年1月	インド	インド西部地震	死者 2万人
1999年12月	ベネズエラ	洪水・土石流	死者 3万人
1999年8月	トルコ	イズミット地震	死者 1万5,500人
1998年10月	ホンジュラス、ニカラグア	ハリケーン・ミッチ	死者 1万7,000人(推定)
1991年4月	バングラデシュ	サイクロン・高潮	死者 13万7,000人
1990年6月	イラン北部	マンジール地震	死者 4万1,000人
1988年12月	アルメニア	スピタク地震	死者 2万5,000人
1985年11月	コロンビア	ネバド・デル・ルイス火山噴火(泥流)	死者 2万2,000人
1985年9月	メキシコ	メキシコ地震	死者 1万人
1985年5月	バングラデシュ	サイクロン	死者 1万人
1982年3月	メキシコ	エルチチョン山噴火	死者 1万7,000人
1978年9月	イラン北東部	地震	死者 2万5,000人
1977年	インド	アンドラ・プラデシュ州 サイクロン・アンドラ・プラデシュ	死者 2万人
1976年7月	中国河北省	唐山地震	死者 24万2,000人
1976年2月	グアテマラ	グアテマラ地震	死者 2万4,000人
1974年	バングラデシュ	洪水	死者 2万8,700人
1972年12月	ニカラグア	マナグア大地震	死者 1万人
1971年11月	インド	オリッサ州 サイクロン・高潮	死者 1万人
1970年11月	バングラデシュ	サイクロン・ボーラ	死者 30万人
1970年5月	ペルー北部	アンカシュ地震	死者 6万7,000人
1970年1月	中国雲南省	通海地震	死者 1万人